

## 観察から始まる野菜づくり

徳野 雅仁

ソラマメ(空豆)は、五月下旬に収穫期を迎えます。空に向かつて莢が生長するところからその名があり、この莢が下を向くと、収穫期です。五月に穫れるところから五月豆の名もありますが、この花の愛らしさは春の菜園に欠かせない彩になっています。

ソラマメの花は、それぞれの枝の葉脈に一〜四花ずつ、下段から順に着生し、枝ごとに同じ方向を向いて咲きます。花弁の模様に愛嬌があり、あたかも葉腋からいつせいに飛びたつハチドリを思わせませす。

野菜の花はどれも控えめに咲き、見過ごしてしまいがちですが、ナス、ジャガイモ、ネギ、ニラ、ダイコンなど、身近かで観察してみるとあらためてその美しさに気づきます。できればルーペや、カメラのマクロレンズを通して見ると、肉眼では見えなかった世界がクローズアップされ感動も大きくなります。花に限らず芽や茎葉、果実からタネに至るまで、拡大して眺めてみると、自然がつくり出した見事なまでの造形美に感心してしまいます。そして、ついでに雑草も。ホトケノザの小さな蕾や花、ハコベ、オオイヌノフグリ、そして、アカザの小さな花を拡大してみると、これほどにも神秘的な花を咲かせていたのかと新たな感動を覚えます。また、ナホシテントウの幼虫がアブラムシを食べる様子や、昆虫の営みを追ってみると、普段知り得ることができないさまざまな場面に出会い、野菜づく

りを行う上で昆虫や雑草が欠かせないものであることがわかってきます。

たとえば、四月から五月にかけて、ソラマメの芽先にはビッシリとアブラムシがつくことがあります。しかし、すかさずナナホシテントウが飛来して捕食し、幼虫も現れてアブラムシを食べ始めます。おもしろいのは飛来の仕方です。一株に二匹ずつ分散し、幼虫も同じ数で分散します。とくに幼虫は大食漢で食欲旺盛。ほぼ二三日ですべて食べつくします。なぜ一株に数匹が集中せずに見事に分散できるのか、自然界には人間にはわからない不思議な出来事が数多くあり興味がつきません。このように作物と昆虫、そして、雑草と作物、雑草と昆虫の関わりを注意深くみつめると、これまでの知識では知ることができなかった自然界の仕組みが見え始め、昆虫や雑草の存在こそ作物の生長に役立っていることがわかってきます。

野菜づくりは、環境への配慮と、作物が自然で健康に育つように、そして、それを食べる私たちにとって安全を最優先したものでなければと思っっています。野菜づくりを通して菜園に飛来する昆虫や雑草を観察しながら、自然界の素晴らしさやおもしろさを子どもと一緒にわかち合えればと願っています。

(イラストレーター イラストも筆者)

